

一般口演 2

02-5

渡航者希望のワクチンは医師の助言でどのように変化したか？

○小田 典子^{1,2)}, 小田 健司²⁾

1) 広島文教大学 2) おだ内科クリニック

【背景と目的】

おだ内科クリニックの渡航外来では受診者の増加に伴い、事前に予防接種計画などの準備をしておくことが有効であると考え、フォーム入力による事前の問診を導入している。2017年8月より集計が容易なシステムに改めたため、今回は申込フォームメールの基本情報から7種類の渡航関連ワクチンの希望と実際の接種状況について比較検討した。

【方法】

2017年8月17日から2018年8月13日の間に受信した申込フォームメール427件から、同一人による重複15件、受信後に来院しなかった48件を除いた364件(男性260名、女性104名)を検討対象とした。フォームメール入力項目は、名前、性別、生年月日、住所、連絡先、渡航先の国名、渡航目的、出発日と帰国日、希望する渡航関連ワクチン、備考(過去の接種歴や連絡事項、質問、請求書のあて先などを自由記入)である。

【結果】

364名の年齢は、男性1～71歳(中央値36歳)、女性0～68歳(中央値25.5歳)であり、渡航先ではアジアが229件(62.9%)、渡航目的では仕事が250件(68.7%)と最も多かった。全体に占める各渡航関連ワクチンの接種率は、A型肝炎76.1%、B型肝炎53.8%、狂犬病50.0%、破傷風68.7%、日本脳炎37.1%、腸チフス46.4%、髄膜炎菌3.8%であった。

希望する渡航関連ワクチンの選択項目の1つとして「医師に任せる」も挙げており、これを選択し他にワクチンの指定がない症例(以下、お任せ群と称する)が90名(男性68名、女性22名)あった。このお任せ群における各ワクチンの接種率はA型肝炎78.9%、B型肝炎62.2%、狂犬病50.0%、破傷風81.1%、日本脳炎50.0%、腸チフス65.6%、髄膜炎6.7%であった。

一方希望するワクチンを指定した群(以下、指定群と称する)は274名(男性192名、女性82名)であり、この群における各ワクチンの希望率と実際の接種率(実施率)は以下の通りである。A型肝炎:希望率76.3%、実施率75.2%。B型肝炎:希望率52.6%、実施率51.1%。狂犬病:希望率56.6%、実施率50.0%。破傷風:希望率66.4%、実施率64.6%。日本脳炎:希望率33.6%、実施率32.8%。腸チフス:希望率32.5%、実施率40.1%。髄膜炎:希望率2.9%、実施率2.9%。

【考察】

上記7種類のワクチン接種率は、狂犬病を除きいずれも指定群よりお任せ群で高率であり、特に腸チフス、日本脳炎、破傷風でその差が大きかった。この要因として、肝炎や狂犬病などと比較して、渡航ワクチンとしての情報が一般に普及していないことや、希望者の年齢によって既接種の状況や対応が異なること等が考えられた。また、指定群において唯一希望率より実施率の方が高かった腸チフスについては、医師による情報提供・啓発によるところが大きいものと考えられる。